

環 境 と 彫 刻

本田 貴侶*



高村光太郎大賞展・優秀賞 「聖なるもののリビドー」 デッサン

* 埼玉大学教育学部美術教育講座

風景彫刻との出会い

私の彫刻は自然の風化や潮解作用によって、具象的要素が、削り取られ、滑らかに曲面化した海辺の流木や小石がその基になる。量表現のモデリングと、内部からのエクспанションを意識したカービングの、全く相反する造形の過程が同時進行してフォルムが出現するのである。目から入ったモチーフは感動のフィルターを通ると、いつも或る種の触感覚を刺激し、柔らかなカーブを想起し始め、曲面で形を包み込むようにして、抽象化したオーガニックなフォルムを導き出す。

物体を空間的な量として把えるために、フラットな面の意識を、運動と時間の介在による曲面に変え、透明性・同時性の料理法によって、多角的でデフォルムを出現させる。観る人にとっても、視線の多様な移動を誘発することになる。

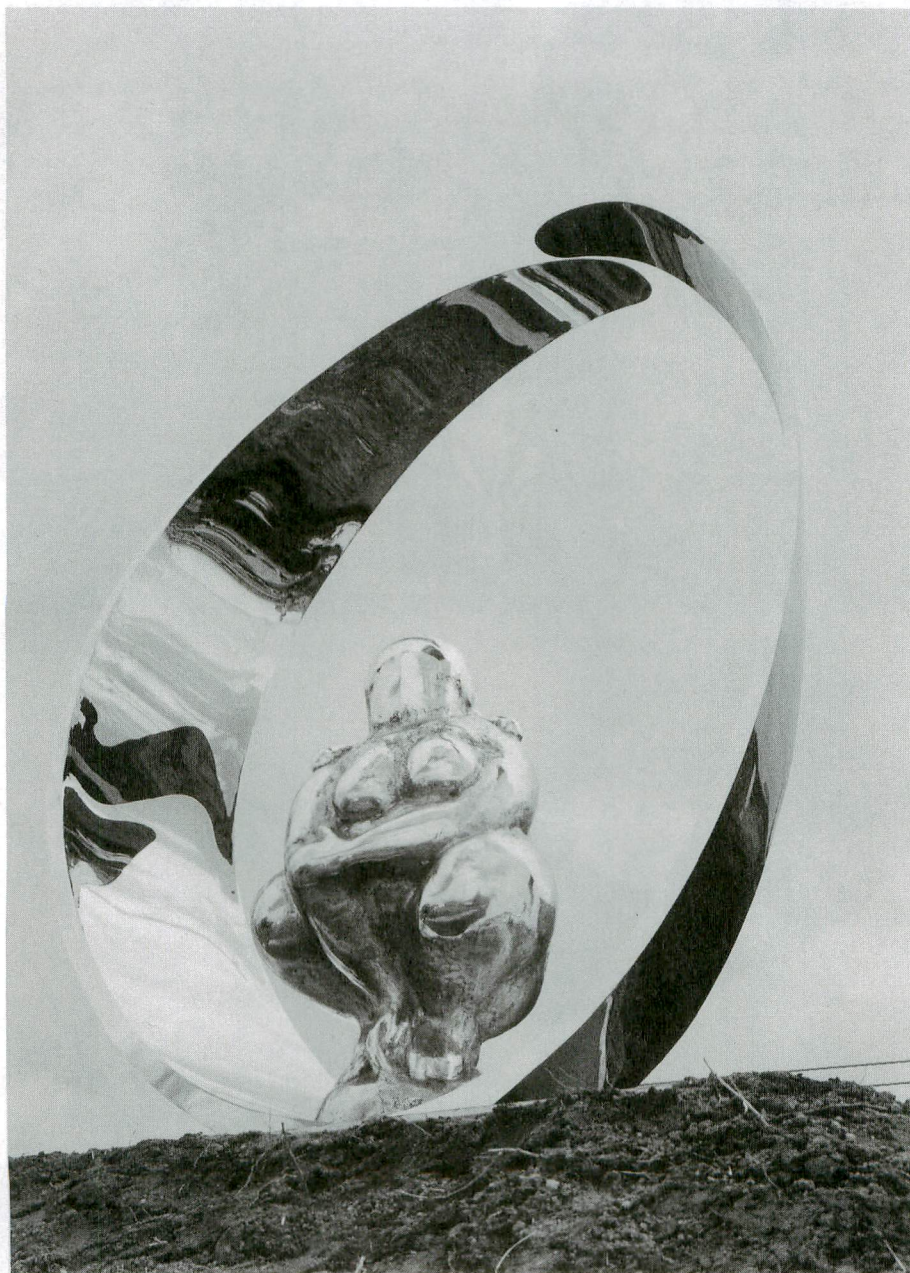
作品の流れとしては、年を追うごとに単純化され、メッセージとしての表現内容は増え、主題の抽象化によって、フォルムの象徴性（シンボル性）は増々強くなっている。私にとって抽象化はゴールではないが、材料の扱い（鋳造法）とあいまって彫刻の概念の拡大をもたらしていると言えよう。

すなわち形態のもつ外面を順次研磨を進行させることによって、具象的フィギュアが、消えていき研ぎ出されたテクスチャーが表れ、有機的物体の存在となっていく。最後に表面は最高に研磨され鏡面となり、周囲の状況を虚像として映し出し始める。この成果は制作過程に於て、より形の緊張を持続させようとして研ぎ続けた時に生れた現象でもある。

映すことによって、周囲の人や風景が作品に参加するのである。作品を置けば環境が整うということだけでなく、囲りの状況を取り込むことで、その場にいる人に、有機的な関係の意識を触発し、環境の概念を膨らませて欲しいのである。あたかも産業革命以前の風景画を見る人々のように、参考作品を鑑賞して頂ければ幸いである。……知らず知らずに人間が風景化することを信じて。



本田貴侶展（個展）「ある晴れた日に - a」 35×45×50 cm ブロンズ鏡面仕上げ ギャラリーせいほう 1981年



第1回口ダン大賞展・優秀賞 「ある晴れた日に」 85×175×315 cm 白銅・ステンレス
美ヶ原高原美術館 1986年



第2回口ダン大賞展・優秀賞 「雲海に立ちて」 430×400×500 cm アルミ合金
美ヶ原高原美術館 1988年

「風の部屋」そして「羽化の時」(木彫)

—オブジェ化の方向の中で—

大気の漂いは、その時々、静かに、穏やかに、流れるように、また時として、激しく渦巻くように変化する。風はいつの間にか来て、気紛れに去っていく。

風によって、見えないところから彫り進めていったこれらの造形は、芯から外へと、負の空間を造りだす。彫れば彫るほど形は無くなるが、そこには円想図のような、無の世界が充填されていく。

彫ることは、彫らないことだ。造ることは、造らないことだ。ソリッドにえぐっていく空洞の中には、マイナスがプラスに変身する瞬間がある。丁寧に材と対峙する時、桜や樺(けやき)の大木との対話が始まる。出来るだけもとの木形を残して、自分の情念を注ぎ込むこと。情念が形になったら……と考える。

自然はオブジェだ……。というささやきとともに、風の部屋が次第に出来てくる。

さあ、木彫たちは、どんな風を送り出してくれるでしょうか。……風は旅人、東の間の安らぎの住み家はどこにあるのだろうか。

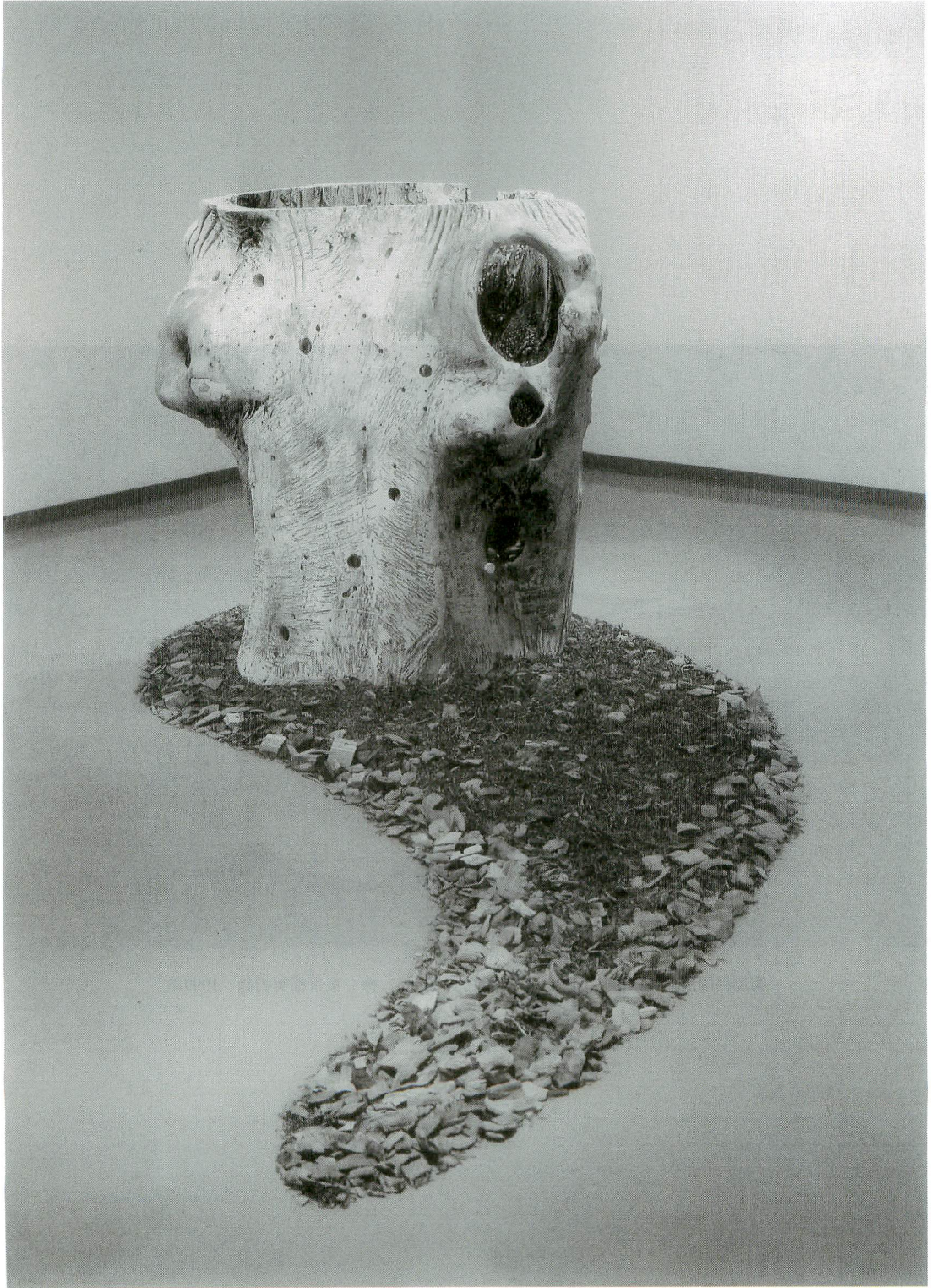
今日は、風の部屋を訪れてみませんか。

10年間追求した“風の部屋”シリーズを受け、風によって削ぎ取られた空洞の中から羽化するものは何か……。そして、テーマと素材の一致は達成されただろうか……。

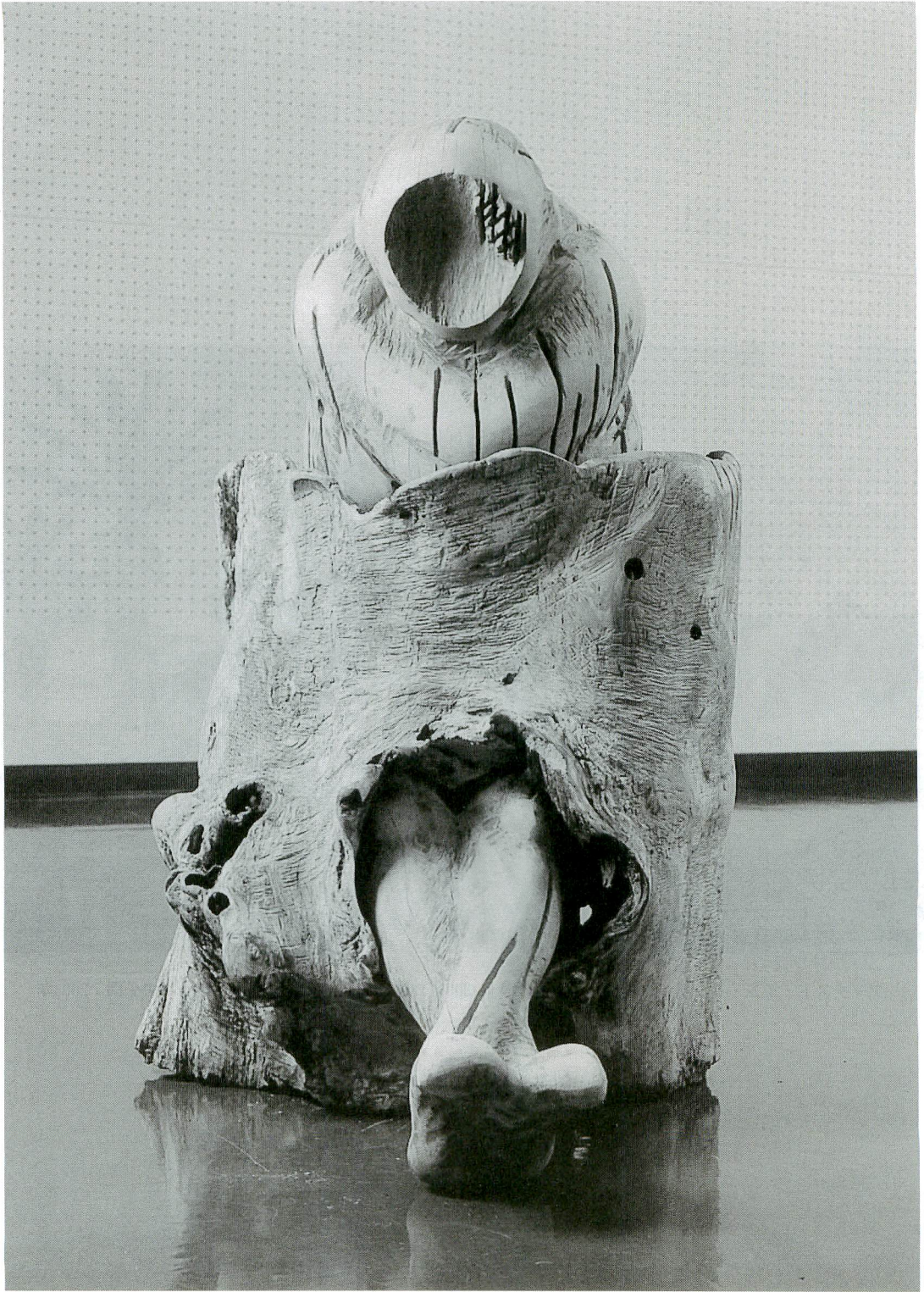
西欧モダニズムの彫刻の思想を深めミメーシス(再現の美)から脱却を計れるか……。生きた素材であった木の材から生み出されるものは有機的な形態を持って、生命を暗示し、空洞の中で育ち、羽化しようとしている。……その状態こそが「彫刻」(人間像)を造形する作業でありたい。



第73回国展 「風の部屋Ⅱ」 125×260×120 cm 櫛 東京都美術館 1999年



本田貴侶展（個展）「風の部屋Ⅴ」 350×200×130 cm 榲 ぎゃらりーせいほう 2003年



CAF・N展 「羽化の時・B」 200×90×155 cm 桂 埼玉県立近代美術館 2005年



アーティスト・イン・レジデンスUTO 「太古の夢」 200×180×250 cm 馬門石6t 宇土中央公園 2004年



ARS KUMAMOTO展 招待出品 「千の風ー風の部屋シリーズ」 250×235×345 cm 杉
熊本市現代美術館 2006年